

## 早期実施の最低保障年金

’2010/10/5 上條勝巳

これは昨年、政権党である民主党に提案した早期実施の最低保障年金である。いまだ何も反応は出ていないが、もし今後このような早期実施の政策が出てくれば僕の提案が採用されたと思いたい。というのはこの様な早期実施の政策はマスコミなどを通じて全く聞いたことがないからである。これは、仮に今年度の国会で法律が国会で通り、システムさえ出来れば、来年4月からでも実施できるという制度である。

その方法は簡単で、消費税を例えば3%上げて財源として約7.5兆円を確保する。これを、年金月額1万円未満の年金受給者には月7万円、年金月額1万円～1.5万円未満の年金受給者には月6.25万円、年金月額1.5万円～2万円未満の年金受給者には6.15万円・・・年金月額24万円～25万円未満の年金受給者には0.5万円等の段階的上乗せを直ちに実施するものである。ただし、この上乗せ額はもっとこまかく総受給額がなだらかに上昇するように規定する必要がある。なお、年金月額25万円以上の受給者には支給しない。

この上乗せ支給は、国民年金、厚生年金、共済年金等の年金受給者個人毎に支給する。夫婦それぞれに支給される。毎年の消費税3%でどの程度上乗せ可能か試算するよう提案している。

毎年の消費税収入は変動するので上乗せ額も毎年変動するが、毎年の消費税収を使い切るやり方とし、いわば、単年度決算変動型最低保障年金である。

これにより、次のような効果が期待できる。

- 1 消費の拡大と経済成長寄与
- 2 民生の安定
- 3 年金への信頼
- 4 生活保護費の削減
- 5 削減された生活保護費を他の分野に使える

このような基本的考え方でこの早期実施の最低保障年金が一日でも早く実現することを願うものである。